平成３０年度　日向市立財光寺中学校　自己評価・学校関係者評価　　４段階評価：　４　とても良い　３　良い　　２　少し悪い　　１　悪い

重点目標	自己評価	手　段	自己評価	手　段	評　価　項　目	肯定的評価（%） 生徒	保護	教師	来年度に向けての改善策	学校評議委員からの御意見等 評価	御意見等
学力の向上	3	わかる授業の充実	3	○　全員が年間１回以上の研究授業を実施し、授業力の向上を図る。 ○　指導法の改善工夫を図る。	○　授業に積極的に取り組めたか。(生徒) ○　理解できるように工夫されているか。(教師)	87		88	○　本年度も重点支援校訪問を受け１人１授業、各教科(各研修グループ)３回以上の研究授業等による課題や成果を基に各教科担任同士が協議を重ね、授業改善に取り組んだ。授業の工夫・改善を通し、授業力向上に向けての実践は概ね肯定的であった。今後も、生徒が「わかる！・できる！」が実感できるように教師の授業力向上に努めていきたい。 ○　生徒・保護者ともに授業に対して肯定的意見である。しかし、生徒は授業には積極的に取り組む姿勢がみられるが、わからないところをそのままにしている生徒が多いことが窺える。質問しやすい雰囲気づくりや学習（学校・家庭）への意欲を高める工夫を図っていく。 ○　「はげまし隊」を昨年度から正式導入し、１年数学を中心に活動していただいている。生徒の理解度に応じて、細かい指導や学習内容理解の定着・深化に向けた支援だけでなく、学習態度等についてもサポートしていただいている。	３．０	○概ね生徒は積極的に授業に取り組んでいると思う。 ○はげまし隊の活動を通して、少人数学級での学習が、生徒達にとって重要であると実感している。 ○「わからないところを…」の自己評価が昨年と比較して低下している。より効果を上げるための対策を講じてほしい。 ○はげまし隊の方々のサポートは大きいと思う。今後も継続していただきたい。 ○「家庭学習が確実にできている生徒」の割合が高いとはいえない。家庭学習の重要性を理解させ、学校と保護者の共有を図ってほしい。 ○生徒や保護者が、家庭で夢や目標を話し合っている割合が高いことはいい傾向である。キャリア教育に学校が力を入れていると感じる。 ○キャリア教育を学ぶ必要性や連携について、保護者・教師・地域が共通認識や目標をもつ必要がある。キャリア教育が進学・就職だけでなく、地域経済や雇用についても学べる機会を設けてほしい。
					○　わからないところは、その日にうちに解決しているか。(生徒) ○　教師は指導法の改善工夫を行っているか。(保護者･教師) ※　保護者の方に対する「わかる授業の充実」については、この項目のみで調査を実施した。	59	86	80			
		知識・技能の習得と活用 学習習慣の確立	3	○　各教科で数値目標を設定し、基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ○　学習習慣を確立させ、自ら学ぼうとする態度を育成する。	○　基礎学力をつけるための努力をしているか。(生徒) ○　子どもは基礎学力をつけるための努力をしているか。(保護者) ○　基礎基本定着の手立てをとることができたか。(教師)	81	64	84	○　基礎基本の定着及び主体的・対話的な学習活動を取り入れた授業に取り組んだ。その際「授業に対する４つのチェックポイント」を意識し、授業を進めた。また、研究授業においても事後研修会をより充実させるためにＫＪ法を用い授業力向上及び生徒の基礎学力の定着に努めた。８割を越える生徒が、肯定的評価をしている。しかし、保護者の肯　定的評価が昨年度より８ポイント低下したことが課題である。保護者からも納得いく結果につながるように工夫・改善を図る必要がある。 ○　家庭学習については、昨年度に比べ生徒の肯定的評価が６ポイント低下した。しかし、３年生の評価は、肯定感が８割を超えており、１・２年生時からの自宅学習の重要性を再確認をしなければならない。また、職員の評価についても、昨年度と比較し６ポイント下がっており、生徒に十分な学習習慣を付けられなかったと考えている職員が多い。今後、教師による粘り強い指導と、保護者と連携した改善を図っていく。		
					○　家庭学習は確実にできているか。(生徒) ○　家庭学習は習慣化されているか。(保護者) ○　学習習慣を確立させるための手立てをとることはできたか。(教師)	75	76	60			
		キャリア教育の充実	3	○　キャリア教育の視点で教育活動に繋がりをもたせ、人間関係形成能力を育成する。 ○　日向市キャリア教育支援センター等との連携を図る。	○　進路への関心が高まったか。(生徒) ○　進路への関心が高まったと感じるか。(保護者) ○　進路意識を高めることができたか。(教師)	82	72	68	○　キャリア教育については、本校の計画を基に段階的・系統的な指導を実施した。３年生の「高校による出前授業」、２年生の「職場体験学習」や１年生の「１３歳のハローワーク」では、本年度も各学校や各事業所の方々から肯定的なご意見を多くいただいた。今後もこのような貴重な体験を生徒の進路意識へとつなげていきながら指導の充実を図っていきたい。保護者、職員の評価も上がっている。 ○　家庭で、夢や目標等を話し合ってると回答した生徒・保護者が本年度も８割を越えた。今後も家庭において、将来の夢や目標を話し合う機会を増やしてもらうためにも、進路情報の発信の強化を図るとともに、より積極的に将来について話し合う機会を作ってもらえるよう協力を要請していきたい。		
					○　将来の夢や目標を考えているか。(生徒) ○　夢や目標を話し合っているか。(保護者) ○　基礎的･汎用的能力を育成できたか。(教師)	81	86	64			
豊かな心の育成	3	道徳教育と人権教育の充実	3	○　道徳に関する研修を充実させる。	○　有意義な時間であるか。(生徒･保護者) ○　道徳教育の充実を図ることができたか。(教師)	78	82	56	○　来年度から「特別の教科　道徳」がスタートする。道徳教育の充実については、道徳的な実践力を育てる取組について、今後も生徒の実態を考慮しながら工夫改善していく。 ○　人権教育についても、年間計画に沿って、生徒の実態に応じた各学年の取組を充実させていく。 ○　「無言・気づきの清掃」については、生徒・教師の評価がともに高い数値を示しており、財光寺中の誇れる伝統である。昨年度と比較し、教師による評価が下がっているため、より充実した清掃になるよう指導していきたい。また、学校で培った奉仕の精神が家庭　での手伝いや地域でのボランティア活動への意欲にもつなげていきたい。 ○　学校生活で活躍できる場面について、生徒の評価は昨年とほぼ変わらないが、保護者・教師の結果は良好である。特に教師による評価は高く生徒に対する場の提供はできたと考える。今後もキャリア教育の観点から、自己肯定感・自己有用感を高めるための手立てをさらに工夫改善していきたい。	３．４	○大人の社会でもＳＮＳを通しての事件や事故が社会問題になっている。そういった大人にならないように心の教育を充実させてもらいたい。 ○清掃に積極的に取り組めた生徒の割合が高い。財光寺中の伝統であるといえる。 ○無言清掃への生徒達の取組はすばらしい。
		無言・気づきの清掃の深化	3	○　清掃活動を師弟同行の学びの場とする。	○　積極的に取り組めたか。(生徒) ○　家庭でもお手伝いしているか。(保護者) ○　無言清掃･気づきの清掃の充実･深化が図られたか。(教師)	93	64	84			
		絆づくりの推進 生徒会活動の活性化	3	○　教育活動の全てで生徒が活躍できる場面を実現し、自己有用感を高める。	○　学校生活で活躍できる場面やできそうな場面はあるか。(生徒･保護者) ○　自己有用感を高めることができたか。(教師)	77	85	96			

健やかな体力の育成 安全教育の推進	3	体力の向上	3	○　新体力テストを活用する。 ○　部活動を活性化させる。	○　スポーツ等に積極的に活動できたか。（生徒･保護者） ○　体力向上を意識した取組はできたか。（教師）	８６	８２	４４	○　体力向上については、生徒・保護者の評価は良好である。今後も教師が体力向上を意識した取組を継続指導していきたい。また、 教師の評価が１９ポイント低下した理由は、部活動の練習日数が減ったことが原因として考えられる。	３．４	○生徒は積極的に部活動に取り組んでいる。働き方改革を含め、部活動の練習日が減ったことで先生方の意識はどのように変わったのか。 ○むし歯治療と部活動がリンクしている点も良いと思う。 ○むし歯治癒率が平均 96 %、目標 100 %は素晴らしい。 ○規則正しい食生活をしているか、の項目が生徒、保護者共に９割を超えているのはいいことである。
		健康的な生活習慣 安全教育の推進	3	○　健康・安全教育の推進を図る。 ○　食育の推進を図る。	○　健康･衛生面を考えて生活しているか。（生徒･保護者） ○　健康･衛生･安全面の意識を高めることができたか。（教師）	９３	８４	７７	○　生徒・保護者ともに良好な評価となった。しかし、うがい、手洗いの励行や、喚起を呼びかけたが、インフルエンザ罹患生徒が増えてしまった。今後も学校及び家庭での手洗い、うがい、換気の徹底、マスク着用の励行について指導を継続したい。 ○　養護教諭の指導及び保護者の皆様の御協力により、今年度の生徒の「むし歯」治癒率（２月中旬現在）が１年生９７％、２年生９５％、３年生９６％、平均９６％であり、非常に高い結果となっている。保護者の皆様の御協力に感謝したい。今後も「むし歯」に罹患する生徒を減らすとと　もに、治癒率１００％を目指したい。 ○　養護教諭やＰＴＡ保健部を中心に、財光寺小・財光寺南小との小中連携、財光寺中学校区学校保健委員会を年２回開催している。今年度は、「食育」について研修を行った。次年度も小中連携し取り組んでいきたい。		
					○　規則正しい食生活を送っているか。（生徒･保護者） ○　正しい食生活の習慣を身に付けさせることができたか。（教師）	９３	９０	７３			
地域社会との連携 広報活動の充実	3	家庭と学校の連携推進	4	○　通信等で積極的に発信する。	○　学校や学級からの文書を家の人に見せているか。（生徒） ○　通信を見て、返信もできるだけ書いているか。（保護者） ○　通信等で積極的に発信することができたか。（教師）	８３	６０	７６	○　学校からの情報発信は「学校だより」「学年だより」「学級だより」等を通して、定期的に行っている。「財光寺中学校ホームページ」も随時更新している。生徒が文書を保護者に渡している数値は昨年度より２ポイント下がったが、保護者の方には見ていただけていると考えている。保護者の評価結果については、返信の有無に触れているため、若干低い結果にな　ったと考えられる。 ○　ＰＴＡ広報部の皆様がＰＴＡ新聞「大樹」を年３回作成された。それぞれの号で、行事や、かい外科整形外科院長、甲斐史朗氏の「成長期に注意！側弯症について」のインタビュー記事や高校進学の情報等、積極的に取り組み発信してくださっている。来年度も保護者の皆様と連携・協力していきたい。	２．８	○ホームページを見て、記事の内容や種類が充実しているのが分かった。 ○「学校だより」や、ＰＴＡ広報誌「大樹」は中学校の活動の様子がよく理解できる。 ○地域との連携は自治会や地域の街づくりの中にある小さなことから取り組んでほしい。 ○地区での夏祭りに中学生が参加して、祭りの司会や、売り子として一緒になって体験できるような取組を期待している。
		地域社会との連携推進	2	○　地域人材を活用する。 ○　開かれた学校づくりを推進する。	○　地域の行事やボランティア活動に参加できたか。（生徒･保護者） ○　地域連携を意識した取組はできたか。（教師）	４８	３６	４２	○　地域人材の活用については、１３歳のハローワーク等の行事において、御協力いただいている。今後とも積極的にお願いしていきたい。 ○　評価結果は低いが、年間を通して地域等から案内がくるボランティア活動について、生徒会役員が参加生徒を募るなど、組織的に活動できている。部活動等の関係もあり、参加者数に制限は出てくるが、今後とも地域の中の学校を目指して地域のボランティア活動を奨励していきたい。 ○　保護者の皆様にも、朝のあいさつ運動や地域の巡回指導、祭りの補導、校内の美化活動等積極的に参加していただいている。学校にとってもとても有り難く、生徒たちにとっても良い刺激になっている。 ○　学校と地域との連携については、その取組について研修等を実施しながら、充実させていく必要がある。		
		小学校との連携推進	3	○　合同研修会を充実させる。	○　合同研修会等を通して、小学校との連携が図ることができたか。（教師）			６２	○　昨年度と比較し、少し低い数値となっている。生徒指導を含め、連携は確実に図られている。今後とも、地域の児童生徒を小中で協力しながら育てていくためにも、有意義な研修となるような取組を検討し継続実践していく。		

次年度の方向性について

キャリア教育の視点に立って

1　学力を向上をめざし、基礎学力を定着させるとともに、主体的・対話的で深い学びの視点で授業に取り組み、思考力・表現力を高める。また、家庭学習の指導の充実を図る。
2　豊かな心を育成するために、道徳教育の一層の充実を図るとともに、生徒会活動や無言・気づきの清掃等、全ての教育活動を通して自己肯定感・自己有用感を高める。
3　体力の向上と健康的な生活習慣を育成するために、授業や部活動の充実を図るとともに、計画的に健康・安全教育、食育を推進する。「むし歯」を減らし、治癒率１００％を目指す。
4　地域社会との連携を推進するために、地域人材の活用、ボランティア活動への積極的な参加を通して、地域の中の学校という意識をより一層育てていく。